循環型社会

プラスチック問題対応

基本的な考え方・方針

プラスチックは、容易に加工でき、耐久性に優れるなど、私たちの衛生的な生活に欠かせない素材であり、使用後は適切な廃棄やリサイクルを行うことが大切です。ユニ・チャームは、商品や包装材などにプラスチックを使用するメーカーの責任を認識し、世界的なプラスチック問題の解決に向けて、環境省が主催する「プラスチック・スマート」キャンペーンに賛同しています。また、2024年1月には、CLOMA(Japan Clean Ocean Material Alliance)に入会しました。

2020年5月に公表した「環境目標2030」において、「プラスチック問題対応」の課題に対して「新たな廃プラスチック“0(ゼロ)”社会の実現」を「2050ビジョン」に掲げ、2030年目標を設定しました。また、2022年度には、WWFジャパンが呼びかける「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」に参画し、プラスチック汚染の解決に取り組むコミットメントを表明するとともに、2025年目標を設定しました。さらに、2023年度には同団体が事務局を務める「国際プラスチック条約企業連合(日本)」への参画を表明し、2024年度には「Business Coalition for a Global Plastic Treaty」に参画し、グループ全体でプラスチック問題の解決に向けた取り組みを強化しています。

リスクと機会

リスク

当社で生産している生理用品や紙パンツ(紙おむつ)は、商品材料や包装材でシートやフィルムに成形したプラスチック資材を使用しています。このため、石化由来プラスチックに対する規制強化や課税、再生プラスチック使用の義務化による原材料の需給バランスが崩れることなどにより生産コストが上昇するリスクがあります。また、プラスチック問題に対して主体的に取り組みを行っていることが適切に消費者に伝わらなかった場合、買い控えなどが発生するリスクもあります。

機会

事業活動におけるプラスチックの総使用量を削減する取り組みを継続的に行うことで、石化由来プラスチック資材の使用に対する規制強化に対応するとともに、原価高騰による生産コストの上昇が抑えられます。また、プラスチックの使用量を削減した商品は、環境配慮型商品の購買・使用を希望する消費者に支持されるなど、売上の拡大につながる機会があります。

指標と目標

▶ **Kyo-sei Life Vision 2030「地球の健康を守る・支える」**

指標	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2030年目標
資源を循環利用した不織布素材商品のマテリアル・リサイクルの実施。	開発継続中	開発継続中	開発継続中	商業利用開始
プラスチックに占めるバージン石化由来プラスチックの比率。	開発継続中	開発継続中	開発継続中	半減(2020年度比)

マネジメント体制

当社はTCFDの提言に基づき、「環境目標2030」と「Kyo-sei Life Vision 2030」に沿って報告を行っています。社長執行役員を委員長としたESG委員会において、プラスチック問題対応に関する重点課題の解決に向けた計画を立案し、取締役会で承認を得ています。この計画については年4回の頻度で開催するESG委員会において適宜進捗状況を報告し、さらなる改善策を討議・決定するなど、目標達成に向けたPDCAサイクルを回しています。

P.20 環境マネジメント体制
P.8 サステナビリティ推進体制

▶ 環境目標2030「プラスチック問題対応」

実施項目		基準年度	2022年度実績	2023年度実績	2024年度目標	2024年度実績	2025年度目標	2030年目標	2050ビジョン
包装材における使用量削減	原単位	2019*1	▲12.3%	▲18.4%	▲21.1%	▲26.5%	▲27.0%	▲30%	新たな廃プラスチック“0”（ゼロ）社会の実現
石化由来プラスチックフリー商品の発売	—	—	開発継続中	開発継続中	開発継続	開発継続中	開発継続	10SKU以上発売	
使用済み商品廃棄方法啓発	—	—	50%（8ヵ国・地域）	56%（9ヵ国・地域）	63%（10ヵ国・地域）	63%（10ヵ国・地域）	69%（11ヵ国・地域）	グループ全社で展開	
販促物でのプラスチック使用ゼロ	—	—	日本：2019年度比▲81.8%	日本：2019年度比▲86.9% 中国：2019年度比▲76.5%	日本：2019年度比▲88.8% 中国：2019年度比▲79.9%	日本：2019年度比▲97.5% 中国：2019年度比▲93.7% ベトナム：2022年度比▲37.4% インド：2023年度比▲21.7%	日本：2019年度比▲97.9% 中国：2019年度比▲94.8% ベトナム：2022年度比▲47.8% インド：2023年度比▲34.8%	グループ全社で原則ゼロ	

*1 設定当初、基準年を2016年度としていましたが、2020年度に再検討し、2019年度に改めました。

▶ WWFジャパン「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」参画にあたってのコミットメント

	基準年度	2025年度目標	2030年目標
販促物でのプラスチック使用量	2019	半減	グループ全社で原則ゼロ

取り組み・実績

包装材における取り組み

当社は、パッケージの薄膜化や貼り合わせ部分の極小化などによりグループ全体で包装材におけるプラスチック使用量の削減に取り組んでいます。これらの取り組みにより、2024年度の包装材におけるプラスチック使用量を2019年度比で26.5%削減（原単位）しました。併せて、植物由来原材料を用いたプラスチックの使用も推進しています。

使用量の削減

パッケージの薄膜化や貼り合わせ部分の極小化、商品の詰め方を見直すことによるパッケージサイズの縮小など、パッケージの設計を見直すことで、商品の品質や機能を損なわず、プラスチック使用量を削減することに継続して取り組んでいます。

- **【ブラジル】ベビー用紙おむつのパッケージ**

ブラジルの現地法人では、ベビー用紙おむつを詰める際の圧縮方法を変更することにより、パッケージのサイズを縮小し、『MamyPoko Fralda-Calça Dia&Noite』シリーズでは平均約14%、『MamyPoko Fralda-Calça』シリーズでは平均約6%のプラスチック使用量を削減することができました。また、パッケージの持ち手の仕様変更により、持ち手に使用されるプラスチックを約60%削減しました。

- **【日本】『ライフリー 長時間あんしん うす型パンツ』『ライフリー リハビリパンツ』**

大人用紙パンツ『ライフリー 長時間あんしん うす型パンツ』『ライフリー リハビリパンツ』は、吸収体の形状を変更して薄型化し、パッケージのサイズを縮小することでプラスチックの使用量を削減しました。

- **【日本・タイ】ペットフードのパッケージ**

日本で発売しているドッグフード『グラン・デリ』『グラン・デリ Frecious』とキャットフード『銀のスプーン 贅沢うまみ仕立て』『銀のスプーン おやつ にっぽんSelect』『銀のスプーン おやつ にゃんSpoon』『銀のスプーン おいしい顔が見られるおやつ』、タイで発売しているキャットフード『AllWell』で外装サイズを見直し、内容量はそのままに、プラスチック使用量を削減しました。

- **【日本】『ライフリー おしり洗浄液エッセンス石鹸の香り』**

おしり洗浄液を1.5倍に濃縮して一本当たりの使用回数を増やすと同時に、ボトル容器のコンパクト化を実現することによって、プラスチック使用量を約20%削減*2しました。

*2 容積比。

- **【アメリカ】プラスチック素材の変更による削減**

『Delectables Squeeze Up』のアウターパウチは、PET(二軸延伸ポリエステル)とLLDPE(直鎖状低密度ポリエチレン)のリサイクル不可能なフィルムラミネートから、OPP(二軸延伸ポリプロピレン)とCPP(無延伸ポリプロピレン)に変更した結果、単一素材構造化を実現し、さらに、1年間で約21tonのプラスチックを削減することができました。

紙製パッケージの採用

当社は、パッケージや、パッケージの一部を紙素材に切り替えることによってプラスチック使用量の削減に取り組んでいます。

- **【日本】『超快適マスク 極上耳ごこち®』**

マスクの内袋を紙製に変更した『超快適マスク 極上耳ごこち®』を、2024年5月に限定発売しました。この取り組みにより、内袋に使用するプラスチック量を約60%削減*1しました。

*1 当社従来品の内袋重量比。

- **【ベトナム】『Diana SENSI FOR NATURE』**

ベトナムの現地法人が、2024年6月5日の世界環境デーに合わせて限定発売した生理用ナプキン『Diana SENSI FOR NATURE』では、紙製のパッケージを採用することにより、パッケージのプラスチック使用量を約56%削減しました。

- **【中国】『苏菲 超熟睡安心裤』**

中国の現地法人は、ショーツ型ナプキン『苏菲 超熟睡安心裤』の試供品にプラスチックを約25%削減した紙パッケージを採用しました。2024年5月から2025年3月の11ヵ月で約248万名に配布し、約6.5tonのプラスチックを削減しました。

- **【日本】『ソフィ はだおもい ORGANIC®』**

2024年6月に、パッケージに紙素材を採用しプラスチック使用量を削減した生理用ナプキン『ソフィ はだおもい ORGANIC®』を限定発売しました。このパッケージは、生理用品の保管ケースとしても再利用できる設計です。

- **【日本】『ムーニーナチュラル(テープタイプ) 新生児用試供品』**

ベビー専門店で配布する『ムーニーナチュラル(テープタイプ)新生児用試供品』に紙製パッケージを採用しています。

- **【日本】生理用ショーツのフックを紙製に変更**

生理用ショーツのつり下げフックの原料をプラスチックから紙に変更し、パッケージに使用するプラスチック量を約20%削減しました。

植物由来プラスチックの使用

- **【日本】『ライフリー さわやか男性用快適シート』**

2023年4月に、厚さ約2.0mmで下着のようなつけ心地の男性用吸水シート『ライフリー さわやか男性用快適シート』を発売しました。この商品の個包装には、バイオ由来のPE(ポリエチレン)フィルムを配合しています。

リサイクル材の使用

301-2,301-3

- **PIR(Post-Industrial Recycled)プラスチック*2の使用**

インドの現地法人では、サプライヤーの協力を得て、2024年6月までにすべての自社製造商品のパッケージに、PIRプラスチックを10%含む資材を導入しました。これは、インドの「プラスチック廃棄物管理規則」の改定により、2025年から開始される包装材へのリサイクル材10%含有プラスチックの使用義務化に対応した取り組みです。

オーストラリアの現地法人は、2024年11月、ベビー用紙おむつの新生児サイズとSサイズのパッケージで採用しているLLDPE(直鎖状低密度ポリエチレン)に、従来の約15%のPCR(Post-Consumer Recycle)プラスチック*3に加え、約5%のPIRプラスチックを追加しました。

アメリカの現地法人では、犬用ペットシート『Home Protection』のパッケージに、PIRプラスチックを約10%配合しています。

*2 製造過程で発生した廃棄物(製品ロスなど)からリサイクルされたプラスチック。
*3 消費後の廃棄物(包装材など)からリサイクルされたプラスチック。

● 製造過程で発生するトリムをパッケージにリサイクル

当社が製造する生理用品や紙パンツのパッケージ（包装材）には、フィルム状のプラスチック資材を使用しています。従来は、製造過程で資材を裁断する際に発生するトリム（余剰部材）を廃棄していました。この状況に対し、ザ・パック株式会社、福助工業株式会社、当社の子会社であるコスモテック株式会社が協働し、トリムを回収して再度パッケージの原料とする取り組みを2023年11月に開始しました。2024年度は、使用済み紙パンツからリサイクルした原材料を使用したベビー用紙おむつ『マミーポコパンツRefF』のパッケージに、この再生資材を採用しました。

プラスチック資材のトリム

©Fujiko-Pro, Shogakukan, TV-Asahi, Shin-ei, and ADK

● 【アメリカ】パッケージに再生プラスチックを使用

アメリカの現地法人では、犬用のおもちゃ『Chew'n Clean Tuff Bone Extra Small』と『Chew'n Clean Twisty Bone』のブリスターパッケージに使用しているプラスチックに再生プラスチックを約20%配合しています。

商品における取り組み

当社では、製造・販売している商品の多くが、いわゆる「使い捨て」であることを考慮して、廃棄時の環境負荷低減に配慮した商品開発を推進しています。原材料の組み合わせによる軽量化や薄型化、植物由来原材料を使用した商品の拡大、石化由来プラスチックを使用しない商品の開発に取り組んでいます。

使用量の削減

● 原材料使用量の削減

当社では、商品機能を維持・向上しつつ原材料の使用量削減を継続しています。一例として、2024年9月に日本で発売したベビー用紙おむつ『ムーニーマン』『ムーニーマン 低刺激であんしん』などでは、ギャザー部分に用いるゴム本数の最適化や吸収体の加工技術などにより、使用する資材重量を従来品より約9.6%*1削減しました。

*1 ムーニーマンLサイズで算出。

● 【日本・インドネシア】接着剤の使用量を削減

ウエスト部分の糸ゴム接合に超音波接合技術を採用し、はき心地を改良した『ライフリー うす型軽快パンツ』を2023年11月に発売しました。超音波接合技術を採用することで、従来の接合に用いていたホットメルト（接着剤）の使用量が年間約190ton削減されます。また、接着剤の使用量を削減することで使用後のリサイクルがしやすくなるほか、パッケージに詰める際の圧縮率が改善されて積載効率が向上することで、物流配送時の環境負荷低減にも貢献します。

インドネシアでは、ホットメルトの使用量を削減することで柔軟性が改良され、肌触りがよくなった『MamyPoko X-tra Kering』を2024年12月に発売しました。

● 【日本】オーガニックコットンの採用と高分子吸水材の不使用

『ソフィ はだおもい ORGANIC®』シリーズの生理用品とおりものシートには、肌が触れる表面シートの上層に、土壌や水質などへの環境負荷を最小限に抑えて製造されたオーガニックコットンを100%使用しています。また、高分子吸水材は使用していません。

● 【日本】コンパクトなペットシート『デオシート キレイパッド』

2024年9月に発売されたペットシート『デオシート キレイパッド』は、尿を吸収した部分に貼るだけでシートを丸ごと交換する必要がなく、1枚のペットシートを最大限に有効活用できます。これによりプラスチック使用量を従来品と比較して約52%*2削減することができました。また、『デオシート キレイパッド』には、不織布の製造工程で発生するカットロスを再利用しています。

*2 ユニ・チャーム調べ（『デオシート しっかり超吸収』レギュラーサイズの場合。使用枚数は事前の商品テストにおける代表的な例を参照）。

● 排泄ケアにおける「アウター」と「インナー」の併用を啓発

当社は、大人用紙パンツ（アウター）と、尿とりパッド（インナー）の併用を提案しています。併用した場合には、排尿時の交換はインナーのみとなるため、毎回アウターを交換した場合と比較して約20%の廃棄物削減につながります。

また、タイでは、農村部を中心に、大人用紙パンツではなく布製のパンツ『Lifree Hygienic Pants』と尿とりパッド『Lifree Sub-pad』を組み合わせて販売する「Sharity」プロジェクトを推進しています。

- **つめかえ、つけかえ商品によるリユースの推進**

シート部分を取り替えて使用するお掃除用品『ウェーブ』、つめかえて使用するおしりふき『ムーニーおしりふき』やウェットティッシュ『シルコットウェットティッシュ』など、ホルダーや本体容器を繰り返しリユースできる商品を提供することで、プラスチック廃棄量の削減を推進しています。

- **【日本】繰り返し使える吸水サニタリーショーツ**

2024年1月に発売した『ソフィ 体にフィット吸水ショーツ』は、吸収力とフィット性に優れており、多い日でも1枚で安心して使用することができます。また、洗濯することで繰り返し使うことができます。

植物由来プラスチックの使用

- **【インドネシア】バイオマテリアル*配合商品**

インドネシアの現地法人は、2021年より世界環境デーに合わせて、環境に配慮した商品の発売を継続しています。4年目となる2024年6月には、従来廃棄されていたサトウキビの搾りかすや石灰岩、ボタニカルオイル、天然樹脂を活用したバイオマテリアルを採用したベビー用紙おむつ『MamyPoko Royal Soft Bio』、生理用ナプキン『CHARM Cooling Fresh Bio』『CHARM Daun Sirih Bio』、ウェットティッシュ『Kirey Wipes Antibacterial Bio』を同時に発売しました。

* バイオマスもしくは、バイオミネラル原料を使用した素材。

- **【タイ・フィリピン】『SOFY Natural Love』**

2024年6月5日の世界環境デーに合わせて、バイオマス素材などを使用することで個包装の石化由来プラスチック使用量を約20%削減し、漂白を約50%に抑えたティッシュを使用した生理用ナプキン『SOFY Natural Love』を発売しました。

- **【日本】『ウェーブ ハンディワイパー』ねこデザイン**

環境に配慮したバイオマスプラスチックを配合し、当社従来品と比較して石化由来プラスチックの使用量を約10%削減したねこ耳ケースが付いた、『ウェーブ ハンディワイパー』ねこデザインを2024年3月に限定発売しました。

- **【日本】植物由来プラスチックを使用した『デオトイレ』**

2023年6月に、プラスチック製トイレ容器の原料の10%に植物由来のプラスチックを使用した、猫用システムトイレ『デオトイレ子猫～5kgの成猫用本体セット』『デオトイレハーフカバー本体セット』を限定発売しました。

子猫～5kgの成猫用

ハーフカバー

使用後の廃棄・リサイクルにおける取り組み

当社が商品を提供している国・地域には、廃棄物の分別回収が浸透していないエリアが存在します。衛生的で日常生活に欠かせない消費財を提供するメーカーとして、使用後の正しい廃棄方法の啓発や、分別・リサイクル活動の浸透が重要と考えています。

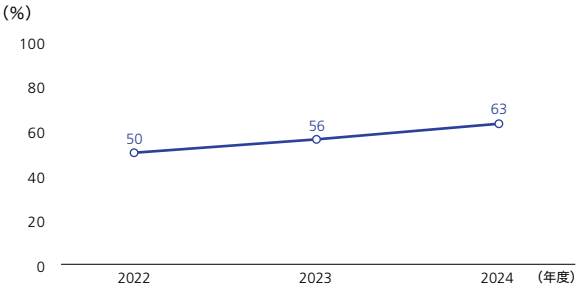
日本の事例

インドの事例

使用後の廃棄方法啓発

使用した商品の廃棄方法は、国や地域によって異なりますが、それぞれの国・地域の法令や基準に合わせて、グループ全体で、商品パッケージへの記載等を通じた使用済み商品の正しい廃棄方法を啓発しています。2024年度の商品パッケージへの廃棄方法の明記は63%（対象16ヵ国・地域中10ヵ国・地域）です。また、未来を担う子どもたちに向けて、分別・リサイクルをテーマとした授業も実施しています。

▶ **使用済み商品廃棄方法啓発展開率**



P.137 環境データ>使用済み商品廃棄方法啓発

●【インドネシア】分別廃棄をテーマとした出張授業を実施

インドネシアの現地法人では、2024年6月に、カラワン県の小学校で分別廃棄をテーマとした出張授業を行いました。この活動は、現地法人のスローガンである「Ethical Living for SDGs」の一環として、2022年度に初めて開催しました。第7弾となる今回の活動では、100名以上の生徒が参加し、分別廃棄をする重要性や、実際に進める際に知っておくべき事柄などについて授業を行いました。また、学校の衛生環境を整えるために、ごみ箱を4つ寄付しました。

●【タイ】廃棄物の分別に関する教育

タイの現地法人では、近隣の自治体や小中学校で、廃棄物の分別に関する教育を行っています。2024年度は、4つの自治体で住民約300名が参加して、牛乳パックや飲料パックの分別廃棄について学びました。また、小中学校では、約250名の生徒に、一般廃棄物や有害廃棄物、リサイクル廃棄物（牛乳パック、紙くず）などの分別方法を説明しました。

リサイクルと拡大生産者責任（EPR）へのコミットメント

インドの現地法人Unicharm India Private Limited（UCIa）は、持続可能性と環境責任への継続的なコミットメントの一環として、2023～2024年度に、GEM Enviro Management Limitedを通じて、使用後のプラスチック廃棄物を約4千tonリサイクルしました。この取り組みは、UCIaのEPRの重要な要素であり、プラスチック汚染の削減と循環型経済の推進に寄与しています。

使用済み紙パンツのリサイクルの推進

当社は、2015年より使用済み紙パンツリサイクルの実証実験を続けています。2022年6月に鹿児島県内の一部の介護施設で、リサイクル原材料を吸収部材の一部に活用した紙パンツの使用を開始し、使用済み紙パンツの水平リサイクルを実現しました。当社のリサイクルシステムは、回収した使用済み紙パンツを洗浄・分離し、取り出したパルプに当社独自のオゾン処理を施すことで、排泄物に含まれる菌を殺菌し、衛生面・安全面・使用面において未使用の原材料と同等に再生するシステムです。

また、志布志市の「紙パンツ専用回収ボックス」の設置（2024年3月～）や大崎町におけるリサイクル過程で分離されたプラスチックを配合した「紙パンツ回収袋」の配布（2022年12月～）などを通じて分別回収の理解と浸透を図っています。さらに、2024年11月には、鹿児島県志布志市立尾野見小学校の創立150周年の記念行事の一環として、「RefF 紙パンツリサイクル」をテーマとした出張授業を行いました。

当社は、次世代の地球を支える小中学生に向けた「使用済み紙おむつは、もう“ごみ”じゃない『図解でわかる ユニ・チャーム紙おむつリサイクル』」をWebサイトで公開しています。

web 使用済み紙おむつは、もう“ごみ”じゃない「図解でわかる ユニ・チャーム紙おむつリサイクル」
https://www.unicharm.co.jp/ja/csr-eco/education.html

販促物における取り組み

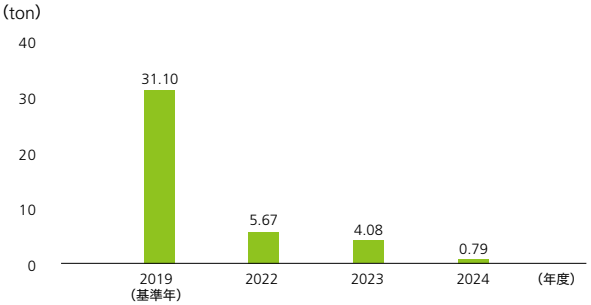
当社は、小売店で商品を陳列する際に使用される、販促物に使用するプラスチック量の削減に取り組んでいます。グループ全社で、2019年度を基準年度として、2025年度までに半減、2030年までに使用ゼロを目指しています。この取り組みは、日本で先行して進められ、順次グループ全社に拡大しており、2024年度は、中国に続き、ベトナムとインドでも取り組みを開始しました。

日本における取り組み

陳列用のフック器具や骨什器、POP等の紙素材への切り替えや、紙製ラックの開発などに取り組んでいます。2024年度の日本の販促物におけるプラスチック使用量は約0.79tonで、2019年度比で97.5％削減しました。

紙製の販促物（日本）

▶【日本】販促物におけるプラスチック使用量



中国における取り組み

中国の現地法人では、紙製POPへの切り替えに続き、紙製の骨什器の導入や分解可能な材質の検証に取り組んだ結果、2024年度の販促物におけるプラスチック使用量は約7.6tonで、2019年度比で93.7%削減しました。

紙製の販促POP（中国）

ベトナムにおける取り組み

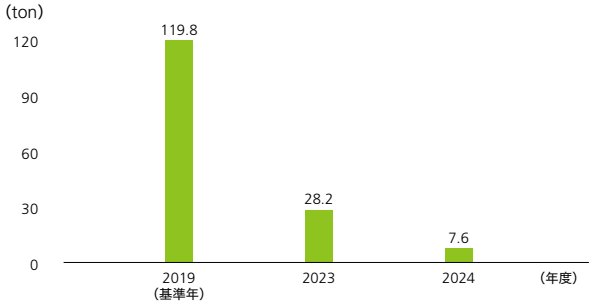
ベトナムの現地法人では、販促物のプラスチック使用ゼロに向けて、ディスプレイやシェルフライナーを紙製に切り替えています。2024年度の販促物におけるプラスチック使用量は約11.5tonで、2022年度比で37.4%削減しました。

紙製のディスプレイ什器（ベトナム）

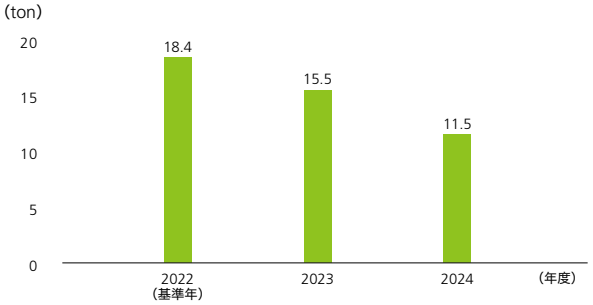
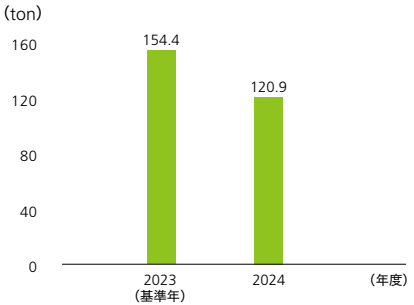
インドにおける取り組み

インドの現地法人では、スイングポップやディスプレイラックなど、さまざまなプラスチック製販促物の削減に取り組んでいます。その結果、2024年度の販促物におけるプラスチック使用量は約120.9tonで、2023年度比で21.7%削減しました。

▶【中国】販促物におけるプラスチック使用量



▶【ベトナム】販促物におけるプラスチック使用量



▶【インド】販促物におけるプラスチック使用量